

日々の

暮らしに

最終回

香川芳子

香川栄養学園学園長

え／目黒雅也



クリスマス

まだ小学校入学前、母・綾に連れられて叔母・田中米が通う教会のクリスマス礼拝に出たのを覚えています。私はキリスト教の高等女学校に通い、洗礼も受けました。毎年12月が近くなるとツリーやベルなどの形のブローチをつけ、クリスマスを楽しみに待ちます。クリスマスで思い出すのは戦後の東京女子医科大学予科時代のことです。極度の食糧難で配給制でした。メリケン粉（小麦粉）とサツカリン（甘味料）でスポンジ台を焼き、クリームも同様の材料でくふうしてケーキを作りました。これを学校に持参して友人にふる

まったのですが、たいそう喜ばれて、友人は70年近くたった今でもその話をするのです。なにもない時代の忘れられない食の記憶だったのだと思います。現在は食べ物に恵まれています。現在は食べ物いせつにすることはみずから生き方を律することです。食事はおいしく、食卓を囲む家族や人々と楽しみ、心豊かに暮らしていただきたいと願っています。

今春から学園長となりました。これを期に、約20年書き続けた巻頭言は香川明夫女子栄養大学学長に引き継ぎます。これからも変わらぬご愛読をお願いいたします。

